

松江市街地浸水にかかる当面の対応策

平成18年7月豪雨洪水から床上浸水と
幹線道路の通行止めを防ぐためには

目的

平成18年7月洪水により、松江市街地が広範囲にわたり長時間浸水し、また、幹線道路の通行止めにより大渋滞が発生した。

抜本的な浸水対策としては、斐伊川治水3点セットの早期完成が必要であり、国県市一体となり大橋川改修の早期事業化に努める必要がある。この間、同様の洪水が発生した場合でも床上浸水や幹線道路の通行止めの防止を目的とする「松江市街地浸水にかかる当面の対応策」を国、県、松江市調整の上で策定し、この間の再度被害の軽減を図る。

対応方針

平成18年7月洪水に対して、床上浸水と幹線道路の通行止めを防ぐためには、当面の施工が可能な施設整備と水防活動とが一体となって市街地部の浸水を軽減させる必要がある。なお、これらの対応策は、水防管理団体である松江市と河川管理者の国土交通省、島根県が連携して行う。また、施設整備については今後2～3年間で整備することを目指す。

【対策後の想定浸水水位 橋北：HP + 1.3m（地区限定 + 1.0m） 橋南：HP + 1.5m】

対応策

（橋北）

施設整備

- ・ 朝酌川からの逆流を防止するため、京橋川河口部に水門を設置する。
- ・ 洪水が水路を通じて逆流する箇所には逆流防止施設を設置する。
- ・ 黒田西原地区などでは、越流による洪水の侵入を防ぐため中川や桜川などの堤防を嵩上げするとともに、内水排除のための小型ポンプを整備する。

出水時対応

- ・ 洪水が大橋川を越える箇所については水防活動として土のう積みなど越流防止対策を実施する。
- ・ 末次、上追子の排水機場により内水を排除する。なお、必要に応じて排水ポンプ車の支援を要請する。
- ・ 小型ポンプを稼働し内水を排除する。

（橋南）

施設整備

- ・ 洪水が水路を通じて逆流する箇所には逆流防止施設を設置する。

出水時対応

- ・ 洪水が大橋川や天神川を越える箇所については水防活動として土のう積みなど越流防止対策を実施する。
- ・ 天神川呑口部や権太夫川河口部を応急的に仮締切りすることにより、宍道湖や大橋川の洪水が市街地へ侵入することを防ぐ。
- ・ 小型ポンプを稼働し内水を排除する。

効果

この対策により、この度の7月豪雨程度の降雨に対しては以下の効果が期待できる。




- ・ 市街地部浸水面積 約 190ha 約 40ha
- ・ 床下浸水戸数 約 1,000戸 約 400戸

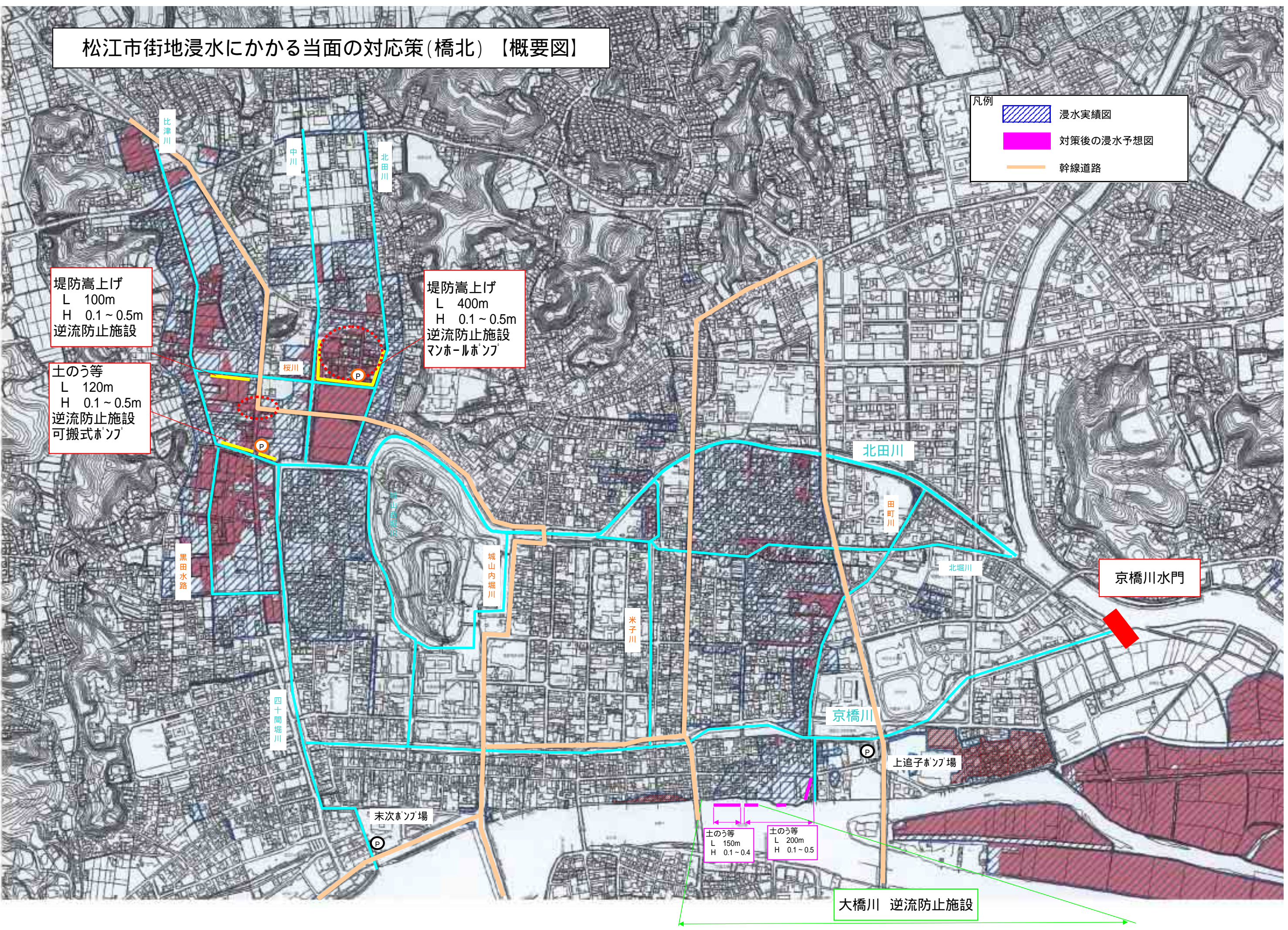
施設整備に掛かる事業費

約 8.5 億円（土のう等水防活動にかかる費用を除く）

松江市街地浸水にかかる当面の対応策(橋北)【概要図】

凡例

-  浸水実績図
-  対策後の浸水予想図
-  幹線道路



堤防嵩上げ
L 100m
H 0.1~0.5m
逆流防止施設

土のう等
L 120m
H 0.1~0.5m
逆流防止施設
可搬式ポンプ

堤防嵩上げ
L 400m
H 0.1~0.5m
逆流防止施設
マンホールポンプ

土のう等
L 150m
H 0.1~0.4

土のう等
L 200m
H 0.1~0.5

大橋川 逆流防止施設

京橋川水門

比津川

中川

北田川

桜川

北田川

田町川

北堀川

黒田水路

城山内堀川

米子川

京橋川

四十間堀川

上追子ポンプ場

末次ポンプ場

松江市街地浸水にかかる当面の対応策(橋南)【概要図】

凡例

- 浸水実績図
- 対策後の浸水予想図
- 幹線道路

大橋川 逆流防止施設

土のう等
L 300m
H 0.1~0.4

土のう等
L 150m
H 0.1~0.3

土のう等
L 600m
H 0.1~0.3

可搬式ポンプ 1式

水防資材用地

土のう等
L 200m
H 0.1~0.2

権太夫川河口部仮締切

権太夫川

大橋川

天神川呑口部仮締切

天神川

天神川 逆流防止施設

